ファーストオリゼ®パディート®粒剤

■種 類 名：シアントラニリプロール･プロベナゾール粒剤
■有効成分：シアントラニリプロール ---------- 0.75%
　　プロベナゾール---------- 20.0%
■化管法指定物質：プロベナゾール［第１種］ ---------- 20.0%
パディート®はFMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標。

■登録番号：第23846号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2016.11.02
■性　　状：淡褐色細粒
■有効年限：3年（担い手直送規格は2年）
■包　　装：3kg×8袋、10kg×1袋
　　40kg(担い手直送規格)

【特長】

- 稲の防御機構を活性化し、いもち病に高い効果を示すプロベナゾールとジアミド系殺虫成分シアントラニリプロールを組み合わせた箱処理剤。
- 育苗箱処理でいもち病からイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、イナゴ類、ツマグロヨコバイ、イネヒメハモグリバエまで長期間にわたり同時防除ができる。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲（箱育苗）	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	1回	2回以内（移植時までの処理は1回以内）
	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イナゴ類 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ イネヒメハモグリバエ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）1箱当り 50g	は種時（覆土前）		育苗箱の床土に均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）1箱当り 50～100ｇ）					

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤を育苗培土に混和して使用する場合は、薬害が生じることがあるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - ◆ 山土、畑土等を使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - ◆ 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - ◆ 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）1箱当りに乾籾として２００から３００g程度を高密度には種する場合は、１０a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/１０aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を５０から１００gまでの範囲で調整すること。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合は使用をさけること。
- ヒメトビウンカに対しては残効性に注意すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
  誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
  作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
  散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。